

飛騨市 全地区

令和6年度

【地域の概要】

- 岐阜県の最北端、県庁所在地の岐阜市から約150km、高山市の北約15kmに位置し、周囲は3,000mを越える飛騨山脈などの山々に囲まれ、総面積792.53平方キロメートルの約93%を森林が占めている。
- 農地面積は1,380ヘクタールある。市内を13地区に分けて地域計画を作成した。
- 農業委員19名、農地利用最適化推進委員14名が活動している。

①取組開始前の状況や課題

令和元年度からの状況

- 紙の地図や写真で行っていた調査が、令和元年に独自のタブレットを活用した調査となり効率が上がった。
- 4台のタブレットを交替で使用するため、自身が調査する期間に限られ、またGPSがないことから現在地の把握が困難だった。
- 調査結果を農業委員会サポートシステムに反映させるための事務局の作業も多かった。

令和5年度から1人1台に

- 令和4年度に国費、5年度に農業会議からの貸与で、全員が常時使える体制となった。

②取組内容

タブレット操作研修（令和6年6月、7月）

- 総会終了後にeMAFF現地確認アプリの操作について研修を実施した。
- 6月は県農業会議の職員を講師に実施し、7月は復習も兼ねて何度も操作した。

農地利用状況調査の実施（令和6年7月～）

- 1人1台タブレットを所有していることから、地域で調査日程を計画し委員の都合のいい時間に調査を行った。
- 入力した調査結果は、すぐに事務局が確認できることから、調査状況が遅れがちな地区について、事務局が完了できるようフォローした。

令和6年度 再生利用可能な遊休農地

1号遊休農地（緑）	256ha
1号遊休農地（黄）	63ha



タブレットにて調査する委員

③今後の展開と方向性

効率よい利用状況調査の推進

- タブレットの利用が初めてのため操作に不慣れな委員が多かったことから、利用機会を増やしタブレット操作に慣れてもらう。
- 衛星画像により得られる状況から農地を判断し、現地調査に行く調査範囲を絞って委員の調査効率を上げる。